

## 会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和7年度 飯田市社会教育委員会議 第1回定例会
開催日時	令和7年9月10日(水)午後6時30分～午後8時36分
開催場所	ムトスぷらざ2階多目的ホール
出席委員氏名(敬称略)	伊藤緑、今村智子、今村光利、北原重一、後藤正幸、 小西盛登、竹内稔、長谷部智子、森本典子 熊谷弘、三浦宏子※協議事項の説明の途中から出席
出席事務局職員	熊谷教育長、秦野教育次長、瀧本副参事中央図書館長、上沼教育政策課長、伊藤学校教育課長、北澤教育センター所長、後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長、下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長、小林公民館副館長、筒井文化会館長兼新文化会館整備室長、楨村美術博物館副館長、牧内歴史研究所副所長、本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長、樋口主事、片桐教育支援指導主事
会議の概要	以下のとおり

### 1 開 会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

ただいまから令和7年度社会教育委員会議第1回定例会を始めさせていただきます。

進行します生涯学習・スポーツ課の本島です。よろしくお願いいたします。

### 2 あいさつ

(熊谷教育長)

皆さん、こんばんは。平日の大変お疲れのところお集まりいただきありがとうございます。

第1回ということではございますが、臨時会を4月に行い顔合わせができておりますので、1回目というか、ちょっと雰囲気が違うかとは思いますが、正式な会議としては1回目ということでよろしくお願いいたします。

昨日、今日と市議会一般質問がございまして、教育委員会の方にも緊急の課題などについてご質問やご意見をいただいています。大まかにご報告させていただくと、学園構想がスタートしているわけですが、そこでの課題はどんなことがあるかというようなご質問をいただきました。まだ課題と言っても、始まったば

っかりなので課題だらけ、課題がまだはっきりと見えてるわけではないという状況ではございます。

また、学校プールの施設について、今民間など学校以外のプールを使っているところが多くなっていますが、学校のプールを使っているのは10校、残りの18校は民間や市の社会体育施設を使っていることをご説明しました。他には体育館の暑さ対策のこと、それから上村地区では子どもたちが地域の皆さんと一緒に避難所のベッドを作ったりなどの体験学習もやっていたけれども、そういうことを進めたらどうかというご意見、あるいは、国民スポーツ大会と、国民体育大会との違いはどうなんだろうという、そんなことも話題に上がったところでございます。

また、部活動の地域展開の方も進んでおりまして、8月30日現在で11団体が地域公認クラブとして認定しております。今も認定作業中の団体もあって、なんとか今年度中には、さらに多くの公認地域クラブが立ち上がっていただけるとありがたいなと思っておるところでございます。

そういう中で、地域公認クラブは学校施設を利用することが当然増えますので、体育館などの学校施設を使用する社会体育利用者との利用調整、時間的な使用区分などをしたらいいのかななどを検討をしているところでございます。

さらに、新たな取組もあって、飯田風越高校では文化・スポーツ教室というのが10月から始まります。それは高校生と中学生が一緒になってスポーツや文化の部活動を楽しむというものです。

そんなふうに、これからは学園構想もそうですし、学校部活動の地域展開もそうですが、地域の皆さんと一緒に子どもたちを育てていく、活動を支えていくという方向に大きく動いているなということを市議会の中でも感じた次第です。

さて、社会教育委員の皆様方におかれましては、4月の臨時会以降、オケ友等にもご参加いただいたり、あるいは飯伊地区社会教育連絡協議会の総会や県の社会教育研究大会等にもご出席をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げたいと思います。

今年度は、社会教育委員会議の日程を昨年度とは変えまして、6年度の事業報告を、各課・館・所の課長から手短かに発表させていただき、それについて忌憚のないご意見や、お気づきの点についてご意見をいただきたいと思っており、また、素朴な疑問も遠慮なく出していただければと思っています。

いずれにしても、議会においては社会文教委員会の皆様にも6年度の事業報告についてご意見をいただくこととなっておりますので、その前に社会教育委員の皆様方にも貴重なご意見をいただけるとありがたいなと思っているところです。

また、最後に報告がありますけども、学園構想の中で、遠山郷学園では小学校の再編ということが決まりまして、令和9年4月に再編するとして準備を進めているところです。その点もご理解をいただければと思っています。

今日は長丁場になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

### 3 協議事項

(後藤座長)

早速協議事項に入りたいと思います。(1)社会教育関係各課・館・所の令和6年度事業報告について、お願いします。

(北澤教育センター所長)

それでは、よろしくお願いいたします。小中学校キャリア教育推進事業についてでございます。これは、各校が取り組みます、生き方に関する学習であったり、ふるさと学習であったり、それらの学習への交付金をはじめ、各中学校代表生徒による結いジュニアリーダー育成講座、そして飯田市東中学校の生徒が中心となり行っております、りんご並木の魅力の発信や維持管理に対して、並木のサポーターの募集などを行ったり、様々な支援をしていくというものでございます。他にも三遠南信中学生交流も進めました。

この事業に関する課題及び今後の取組ですが、今後も交付金を効果的に活用しまして、飯田学園構想における特色ある学びの充実に向け、引き続き各校の支援を進めてまいりたいと考えております。

また、児童生徒の将来を生き抜く力や広い視野を持つことを支援するため、結いジュニアリーダー育成講座と三遠南信中学生交流会、また職場体験学習など、具体的な取組を推進してまいりたいと思っております。

結いジュニアリーダーの育成講座に関しまして、今年度の育成講座のメニューの中に、地域の伝統文化、お祭りから学ぶという講座がありまして、今宮郊戸八幡宮の総代長さんをはじめとする総代の皆さんから、子どもたちがご指導いただいたということがありました。1つだけ、こどもの感想を発表させていただきますと、お祭りといえば屋台見たりするだけだったけれども、裏方の皆さんがこんなふう活躍している、こういう人たちの大変さ、やりがいがあると同時に、何のためにお祭りがあるのか考えることができてよかったです、そんな感想がありました。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

地域力向上連携推進事業です。令和6年度取組でございますけれども、キャリア教育推進フォーラムを開催させていただいたほか、高校生意識調査を実施したり、高等学校の探究学習、地域人材を紹介する等をさせていただいております。

また、情報誌Haguの発行をさせていただいております。決算額等につきましてはご覧ください。課題といたしましては、キャリア教育を進めていく上では、やはり関係機関との連携が1番大事だなというふうにしておりまして、次年度に向けて取組でございますけれども、その関係機関同士の連携をさらに深め

てまいりたいと思っております。特に、令和7年度からは、教育振興基本計画の中の大きな取組として、キャリア教育自体の名前をみらい創造教育と名前を変えて取組を始めたところでございます。そういった取組に対しまして、社会教育委員の皆様のご意見を後ほど頂戴できれば幸いです。

続きまして、平和学習・人権教育推進事業でございます。6年度につきましては、平和祈念館の展示・活用検討委員会を開催させていただきまして、広く市民の皆さんのご意見をお聞きして、展示の仕方等について一定の方向性が出てきているところでございます。

また、特に力を入れておりますピースゼミでございますけれども、生徒さんたちの自発的な学びの中から、能登半島への被災地視察ツアーを計画しまして、現地を訪れて改めて平和の尊さについて学んできたところでございます。振返りの認識としては、やはり平和祈念館の展示活用について、引き続きご意見をいただきながら進めていくということが大事と思っておりますし、令和7年度ピースゼミについては小学生も参加していただいて学びを深めていただいているところでございますので、主体的な学びがより生きるよう取り組んでまいりたいと思っております。

続いて、社会教育運営事務でございます。経常事務となります。本日開催のこの社会教育委員会議の費用等が掲載されています。経常事務ですので、説明を割愛させていただきます。

続いて、科学実験教室推進事業です。行政としては、理科実験ミュージアム等の開催に対しまして補助金を出させていただいて支援をさせていただいているところでございます。振返りの課題認識としては、この事業はスタート時より人気の高い事業ですので、参加者が増加傾向にあるということもございます。このニーズに対応するためのスタッフの確保について、引き続きご支援をしてまいりたいと思っております。

続いて、わが家の結いタイム推進事業です。こちらについては、家庭教育を進めていく上での重要な事業と位置づけて取り組んでおり、三行詩コンクール等を行ってきています。また、近年はパートナー企業認定制度もスタートさせまして、その周知に取り組んでいるところでございます。引き続き、学校教育、社会教育、家庭教育が連携して周知啓発をしていきたいと思っております。また、パートナー企業認定制度の推進も図ってまいりたいと考えています。

続いて、青少年育成事業です。こちらは、伊勢市の小学生との交流事業を長く続けてきましたが、伊勢と飯田を行き来する交流としては令和6年度が最後のいうことで実施しました。また、森本委員に頑張ってもらっております飯田子どもまつりにつきましても、負担金を出させていただいているところでございます。振返りの課題認識としては、伊勢市との交流は、担任ではない教員が引率をしなければならない等の学校側の負担が大きいということや、安全面での配慮が非常に難しくなっている等様々な課題あり、所期の目的は一定程度果たしたということで、行き来をする交流は令和6年度で終了とさせていただきます。令和7年度以降は、伊勢市を紹介するコーナーを、夏休み期間中に中央図書館に設けまして、これまでの交流を振り返る、そんな展示をさせていただきます。ご覧いただいた方からは、ご自身が以前に参加

した経験から懐かしいといった声も寄せられておりまして、細く永くそういったご縁が続くようにと考えているところです。

続いて、文化・スポーツ活動の体制整備事業です。こちらは部活動の地域展開に関する事業でして、令和6年度は推進計画の策定をメインとして取り組んできたところです。その計画の中で、令和8年度末までに休日の部活動の地域展開を目指していくという目標を掲げ、現在それぞれの立場で進めていただいております。振返りというよりも、今現在進行中の事業でございまして、令和7年度につきましては公認地域クラブの発足に向けた支援を行っていきまして、現在11の地域公認クラブが発足し、財政支援として5団体に補助金交付を行ったところです。それから、多様な体験を行っていくための取組として、今年度から「ゆいスポ」という体験型スポーツ講座を行っており、定員を超える子どもさんたちにご参加いただいている状況です。また、そこに種目によっては高校生も運営ボランティアとして関わっていただいております。非常に年齢が近いということで楽しさが増していると報告を受けています。

続いて、競技スポーツ振興支援事業です。こちらについては、様々なスポーツの大会をスポーツ協会が主催し、教育委員会が協力する形で行ってきています。また、子どもたちが一流のプレーに触れる機会等も設けています。そうした機会を今後も引き続き設けてまいりたいと考えています。

続いて、市民スポーツ推進事業です。こちらは、飯田やまびこマーチや記念大会としての第70回風越山トレイルマラソン大会を開催いたしました。また、昨年度は第3次スポーツ推進計画を策定し、今年度からその計画がスタートしているという状況です。振返りの課題認識としては、コミュニティスポーツの普及をもっとしていきたいということ、また、世代を超えてスポーツに触れ、体験できるような環境を作っていくことが大切であると考えています。特に、こどもの体力低下というのが課題となっておりまして、特に中学2年生女子の体力が全国平均や県平均よりも落ちているという現状があります。議会等からもご意見もいただいております。ぜひ、こどもの体力向上に向けたご意見を、委員の皆様方から頂戴できるとありがたいと思っております。

続きまして、体育施設等維持管理・整備事業です。こちらは、ハード面での整備ということで、特に運動公園のプールスライダーの補修などを行ってきています。これらは計画に基づき進めているところでして、昨年度は、総合運動場の第2種公認の更新を行いました。課題認識としては、引き続き体育施設の環境改善に向けて取り組んでいくほか、計画的な整備を行っていくことを予定しています。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

文化財保護事業につきましてご説明します。事業の主な目的は、文化財の保存、継承、活用及び文化財関連施設の管理、活用、運営になります。6年度の主な取組になりますが、市の文化財保護条例に基づいた指定文化財の修繕であったり、それらに対する助言や指導、補助金交付により活動の支援を行ったこと、

また、特に、三穂地区が主催して旧小笠原書院400周年の事業を行ったものに、一緒に活動をさせていただきました。文化財関連施設については、旧小笠原書院や資料館、北田遺跡公園を指定管理しておりますが、新たに旧飯田測候所も指定管理者を決定し、順調に運営をしていただいています。振返りの課題認識でございますが、最近指定文化財の修繕が多くなってきています。そうしたものに対し、継続的な支援を内容や緊急性を踏まえて所有者の方々と相談しながら実施していきたいと思っております。また、文化財の保存、活用に必要であります文化財の周知について、地域と連携した見学会、特に座光寺や竜丘では非常に活発に行われていますが、そういったところも支援してまいりたいと思っております。

続いて、埋蔵文化財調査事業でございます。こちらの事業の目的は、埋蔵文化財の適切な保護措置ということになります。6年度の主な取組でございますが、文化財保護法に基づく様々な届出がございますが、それぞれの対応及びリニアの周辺開発整備事業に伴う調査等を実施しました。特にママ下遺跡では県内でも非常に少ない事例が確認されて、現地見学会も開催し、多くの方々に見ていただきました。県埋文センターとも連携し博物館でも速報展示を行い、飯田の文化財を知っていただくことができました。振返りの課題ですが、リニア関連の事業が進む中で、適切に保護するための調査等の調整事案が増えています。埋蔵文化財保護措置に漏れのないように、進めてまいりたいと思っております。

続きまして、飯田古墳群保存活用事業についてご説明します。

事業の目的は、飯田古墳群の保存、継承、活用、古墳を活用した人づくりや地域づくりになります。6年度を取組になりますが、史跡の追加指定を目的に竜丘の御猿堂古墳の範囲確認調査を行い、周溝等が新たに確認され、古墳の大きさがだいぶ分かってきたということで、それを地域の文化祭等で見ていただくことができました。また、環境整備などは地域で保存団体と連携してやっているところです。また、いいだの古墳探検隊の開催であったり、展示充実を図ってきました。振返りの課題でございますが、飯田古墳群を適切に保存管理していくために、多くの方々に魅力や価値を知っていただく必要があります。このため、引き続き古墳の実態調査を進め、一方では、博物館での古墳関連の展示充実等も進めてまいりたいと考えています。また、7年度からは、飯田古墳群のような古墳ばかりでなく、古墳から出土した遺物についても整理を進めながら、新たな文化財指定に向けた取組を進めてまいりたいと思っております。

続きまして、恒川遺跡群保存活用事業についてご説明いたします。事業の目的は、史跡になっております座光寺恒川官衙遺跡の史跡公園整備及び史跡の保存活用になります。6年度を取組ですが、史跡公園のガイダンス施設の建物が完成しました。また、展示の実施設設計の策定も進めました。さらに、今後、史跡公園を計画するに必要な正倉院がある部分の調査の成果をまとめた報告書も作ってきたところです。また、地域の皆さんに史跡や史跡公園をもっとしていただけるように、学習会、あるいはイメージCGを活用した恒川古代ツアーなどをやりながら、環境整備等も地域の方々と進めてきたところです。課題等になりますけれども、まずは史跡や公園の周知ということが第一に挙げられるとともに、案内人等の人材、あるいは史

跡公園の管理運営についての検討が課題となっています。このため、7年度は、史跡公園整備を継続的に進める中で周知活動や、地域の保存団体と連携した人材育成、公園の管理運営体制の検討を進めてまいります。

(小林公民館副館長)

まず、公民館維持管理事業です。令和6年度は、利用者が安心、安全、快適な環境で社会教育活動に取り組めるよう、施設の維持管理に努めてまいりました。引き続き、社会教育活動に支障をきたすことがないよう、法定点検、日々の点検などを通じて施設の維持管理に努めてまいります。

乳幼児親子学習交流支援事業です。これは、各地区におきまして、保健師等と連携し、3歳までのこどもとその保護者を対象に、発達段階に応じた様々な体験活動を実施しました。昨今の親の早期職場復帰などの社会環境の変化を見る中で、平日の参加が難しいといった保護者のためのファミリーデーの開催も進めています。今後も、情報提供の場としてだけでなく、共感、交流、つながりづくりといった場としての重要な役割を持ち合わせていますので、引き続き、各地区特色を生かした内容の充実を図ってまいります。

多様な学習交流支援事業です。これは、市内20地区において、住民の皆さんとの対話を軸に、それぞれ特色ある地域資源を活用した活動の実践をしています。また、各地区の文化、体育、広報といった専門員の皆さんと連携、協働しながら事業を展開しています。昨今の少子高齢化、人口減少などの社会変化の中で、地域の担い手が減少し、また持続可能な地域づくりの必要性が叫ばれている中、地域住民の一人ひとりの活躍、地域への参画が強く求められてきている状況です。引き続き、日常生活の中に、地域のみんなが楽しく、地域を大切に思う心、こういったものを生み出し、また主体的に地域と関わり続けるため、住民同士の良好な環境、関係性を育めるよう、実践してまいります。

続きまして、高校生等次世代育成事業です。これは、現地学習としまして、東北スタディーツアーとカンボジアスタディーツアーを行いました。これらの取組は現地に行く前の事前学習、また事後学習を大切に、こうした部分を通し高校生に地域を知っていただいて、地域への愛着、誇りを持っていただけるように支援をしている事業です。今年度も、すでにカンボジアスタディーツアーは7月の終わりに実施をしました。また、飯田OIDE長姫高等学校の地域人教育、また飯田風越高等学校の探究学習などへの支援も続けています。また、ムトスぷらざにおきましても、高校生が気軽に相談できる、こういった場の提供、居場所作り、こういったとこを意識した取り組みも引き続き進めてまいります。

続いて、飯田コミュニティスクール推進事業です。学校、家庭、地域の3者が連携、協働することにより地域全体でこどもを育む、こういった目的のもと、地域特有の知識や実践を学ぶ機会や地域とのつながりを深める機会として、地域資源を活用した体験教室、また長期休暇におけるこどもの居場所づくり、こういったとこを展開してきています。今年度、飯田学園構想がスタートし、今後、これまでのコミュニティスクー

ルを基盤としつつ、地域と家庭及び学校の連携を深める取組を進めていきたいと思っています。

続きまして、公民館改修事業になります。これは、教育委員会施設等総合管理計画に基づき、川路・三穂公民館の屋根及び外壁改修、また橋北公民館を始めとする8館の照明のLED化工事を進めました。今年度、各施設の劣化状況調査などに基づき次期施設等総合管理計画を策定をする予定となっていますので、計画的に施設の改修を進めていく予定です。

(瀧本副参事中央図書館長)

図書購入・提供事業は、図書の貸出や調べ物のお手伝いをするレファレンスなどによって、市民の皆さんの読書や調査・研究等を支援するものです。図書購入につきましては、市内の図書館で分担して多様な求めにお答えできるようにしてまいりました。令和6年度は、利便性向上に向けて多くの辞典を串刺し検索できるデータベースを導入しましたので、使い方講座を実施しました。また、貸出カードがなくてもスマートフォンの番号表示によって本が借りられることをPRして、それを使う方が増えてきました。今年度もより多くの方に利用していただけるように、引き続き蔵書の充実を図るとともに、調べ物の支援の紹介や新たな本との出会いの機会を作ってまいりたいと思います。また、郷土新聞のデジタル閲覧の取組も進めてまいります。

図書館管理運営事業です。令和6年度は、中央図書館の一部の外壁の改修工事や空調設備の更新、LED化の工事などを行いました。また、令和7年度から10年度までを期間とする第5次図書館サービス計画を策定いたしました。今年度は、計画に基づいて上郷図書館の照明のLED化の工事を行う予定です。

続きまして、子供読書活動推進事業は、こどもの発達段階に沿って読書活動推進の取り組みを行っております。令和6年度は、7ヶ月児や4歳児への絵本プレゼントや、保育園からの絵本の持ち帰りや分館へ来館しての貸し出しを通じて、定期的にお家へ本を持ち帰って読んでいただく取組を継続して進めました。小中学生の自発的な読書に向けては、読書調査を実施しまして、その結果を受けて、今年度絵本の読み聞かせをしてもらうことから、自分で読書をするために本の楽しさをどうやって伝えていったらよいかを学ぶ研修会を学校司書の皆さんも参加いただいて実施をいたしました。調査の結果を見ても、学年が上がるにつれて読書や図書館利用から遠ざかるという傾向が見えております。昨年度から今年度、数回のワークショップを行って、こどもの読書について考える機会を持っております。こどもに関わる皆さんと連携を深めて、読書活動の推進に取り組んでまいります。

図書館事業は、読書を通じて、また郷土資料を活用して学びや交流を広げることを目指した取組を行っております。令和6年度は、郷土資料を使って調べる講座や源氏物語をテーマとした文学講座などを行いました。今年度は中央図書館開館110周年を迎えますので、令和6年度中から市民の皆さんと一緒に記念事業について検討してきました。実行委員会が立ち上がって準備を進めてきておりまして、9月と11月に記

念事業の開催を予定しております。読書会や郷土の資料を使って学ぶ方が高齢化などで減少する傾向にあります。今年度は110周年記念事業が、図書館を利用したことがない方も図書館へ足を運んで、本や地域に関心を持っていただいたり、交流を深めて活動が生まれたりするきっかけとなるように、実行委員会の皆さんとともに取り組んでまいります。

(榎村美術博物館副館長)

続きまして、美術博物館管理事業です。美術博物館などの建物、設備、備品の修繕から観覧者の受付、案内業務、それから展示物の監視などの業務が主となります。6年度は、収蔵庫などの照明機器のLED化を進めました。また、空調設備等の改修を実施しています。受付ではPOSレジシステムを導入し運用しています。小中高校生の展示観覧料無料化も行っています。また、美術博物館2028ビジョン・基本プランの後期計画を策定しました。課題ですが、博物館の機能を維持するために、建物の経年劣化や設備の更新時期を踏まえ計画的な改修を行う必要があります。次期施設等総合管理計画の中で、施設の計画的な改修などを行っていきたいと考えています。

続きまして、美術博物館資料調査研究・収集保管事業です。地域の自然、文化、美術を対象に調査研究、資料を整理し、将来にわたり市民が活用できる状態にすることを目的としています。令和6年度には市民と連携した調査研究を行いまして、成果は研究記録、自然史論集などで公表しています。また、田中芳男関連資料をたくさんいただきましたが、その修復とデータベースの公開を行いました。この事業は博物館としての根幹の事業ですので、継続的な調査研究を進めるとともに、資料を多くの方が活用できるように全体のデータ化も進める必要があります。また、収蔵スペースが不足しておりまして、現在棚の拡張などで対応しておりますが、新たな収蔵スペースの確保が必要な状況でございます。同じような問題を抱えております社会教育機関と連携しながら改善の計画をしていきます。

続きまして、美術博物館展示公開事業です。展示を行うことによって、来館者に伊那谷の自然や文化の理解を深めていただき、その魅力を発信することを目的としております。6年度は、美術分野では菱田春草の生誕150年の記念特別展、それから特別陳列「飯田と富岡鉄斎」、現代の創造展などを開催しています。人文分野では、太田用成生誕180年記念「『七科約説』を生んだ飯田の医学・本草学」のほか、トピック展示では、旧小笠原書院を取り上げたり、仏師井出嘉汕の眼と技、そして修復を終えた田中芳男関係資料の公開をしております。自然分野では、化石の展示とギフチョウの展示を開催しています。

課題認識としましては、地域の愛着や誇りを感じられる展示、それから市民の興味に応える展示、市民の創造を公表できることのできる展示を開催していく必要があると考えます。そのためには、多くの方々へのアンケートなどによって、博物館の展示に求められてるものを知り、それを展覧会の企画等につなげていきたいと考えています。7年度ですが、すでに終了していますが、遠山郷に焦点を当てました「高山植物

と高山昆虫からたどる南アルプスの博物学の120年」という企画展を開催しました。また特別展「山とともに生きる-遠山郷のあゆみとくらし-」を開催する予定です。

続きまして、美術博物館教育普及・活動支援事業です。伊那谷の自然と文化の特性の魅力をも美術館を活用して学び合う機会の提供を目的としていまして、令和6年度も各分野の講座などを行いました。また、歴史研究所との協働により古文書講座も開催しています。こども向けのイベントとしましては、「子ども美術学校」、「中学生造形教室」、「ワクワクびはくで夏休み」などを開催しました。また、多様な主体との連携としまして、高校の探究学習への協力、遠山常民大学、菱田春草研究委員会、飯田鉄斎愛好会等などの活動支援を行いました。課題としましては、学びの多様化が進んでおり、その変化を察知し、動向を見つめ、対応していくという視点が求められていると考えます。DXなどが進む中で、多くの方が参加しやすい仕組みづくりが必要と考えます。また、飯田学園構想の具体化に伴って、市内小中学校との連携のあり方についても、従来よりも踏み込んだ検討が必要です。

続きまして、美術博物館プラネタリウム運営事業です。これはプラネタリウムを通じ、星座の魅力、地域の愛着、豊かな発想力を養うことを目的とした重要でございます。6年度は、月そして火星という年間テーマによりまして、月や火星に関連した番組を主に行っています。また、出前授業、観望会なども行いました。課題認識としては、プラネタリウムの投影機器の経年劣化が進行しており、多少のトラブルが生じているところがありますので、更新が必要となってきています。本年度はその更新に向けた検討を進めています。

続きまして、上村山村文化資源保存伝習施設管理運営事業です。上村地区のまつり伝承館天伯とねぎやの維持管理、それを通して霜月祭や山村文化の資料展示保存、地域活性化を目的としております。施設は、上村まちづくり委員会が出資して立ち上げております大空企画が指定管理者として管理を行っております。令和6年度には、施設の長寿命化として、天伯の屋根改修工事を実施しました。課題としては、コロナ禍以降観覧者が減っています。まだ数字がコロナ前に戻っていない状況で、これが課題となっています。

続きまして、南信濃民芸等関係施設管理運営事業です。こちらは、南信濃地区にございます遠山郷土館の維持管理、そして遠山郷の歴史、文化を多くの方に知っていただく、そして地域活性化に寄与することを目的としております。6年度は、遠山郷をテーマとした学習会や、人文、自然分野でのトピック展示の巡回を行っております。課題としましては、講演会や巡回展が定着しまして活用の機会は増えておりますが、まだまだ施設の魅力を発信する取組を継続する必要があると考えています。引き続き、地域活性化に寄与しながら、施設の有効活用に取り組んでいきます。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

文化会館等管理運営事業です。人形劇場を含む文化施設の維持管理、改修、修繕などと、文化会館、

人形劇場、県文化センターの3つのホールにおける音響、照明等を専門技術者に委託したものです。施設整備として、ワイヤレスマイク設備改修や会館棟講習室床の改修など、安心して施設を利用いただけるよう整備いたしました。課題認識としては、文化会館、人形劇場ともに修繕や機器更新を要する箇所が年々増えておりまして対応に苦慮しておりますが、設備の維持管理と定期点検を実施し、優先度と予算措置を調整しながら改修を進めてまいります。

続いて、文化会館文化芸術事業です。オーケストラと友に音楽祭は、初の企画となるオーケストラで働く人たちのトークショー、天才トランペッターの児玉隼人さんの再登場など、事業の充実を図りました。コロナ禍を経て、16回目となったオケ友音楽祭が郡市民にとって身近な音楽祭になってきたことを再認識しました。舞台芸術鑑賞事業は、ニコニコステージやコンサートアラカルトなど、市民が気楽に参加できるコンサートを実施いたしました。また、キーウ・クラシック・バレエの招聘や、地元出身ロックユニット GLIM SPANKYの凱旋公演を豊丘村と共同開催しました。GLIM SPANKYの実行委員会には過去最高となる約100名の応募がありまして、その3割は高校生でした。実行委員の皆様様の様々なアイデアが関連企画として実現され、高校生による応援プレイブなど、凱旋公演の成功につながる原動力となりました。

続いて、人形劇のまちづくり事業です。いいだ人形劇フェスタ2024は、海外からは韓国はじめ6カ国、7劇団に参加いただきました。参加劇団は国内外から281劇団、観劇者数は26,575人でした。人形劇創造支援事業では、人形劇講座や基礎レッスン、体験ワークショップなどを実施し、市民劇団の活動や学校での人形劇活動の支援を行いました。人形劇のまち国際化推進事業では、人形劇の友・友好都市国際協会の総会がベルギーで開催され、佐藤市長がオンラインで参加しました。この総会では役員改選が行われ、佐藤市長が継続して副会長へ選任されました。伝統人形劇芝居事業では、人形浄瑠璃芝居を現在も継承している黒田、今田、早稲田、古田の伊那谷4座で構成される伊那谷人形芝居保存協議会への運営支援と、4座の皆さん以外にも後継者育成を目的とした高陵中学校への指導経費の支援を行っています。課題認識といたしましては、まずフェスタの関係では、まだコロナ禍前に観劇数が戻ってきてないこと、合わせて物価高騰により経費が増加しておりますので、これまでと同程度の規模の開催が可能かどうかも含めて検討する必要があります。また、実行委員の皆さんによるフェスタの未来を語る会が設置され、今後のあり方の検討が始まっています。

続いて、竹田人形館管理運営事業です。入館者数は計画数に届いておりませんが、こども向けのワークショップや GLIM SPANKY凱旋公演に関連した特別展、麻績校舎の記念イベントなどにより、昨年度より入館者数が増えました。引き続き入館者数の増加を目指すとともに、継続的な広報や営業を実施します。

続いて、川本人形美術館管理運営事業です。川本人形美術館の管理運営経費で、NPO法人いいだ人形劇センターへ指定管理委託をしているものです。川本喜八郎生誕100年記念企画として、川本氏ゆかりの方々によるトークショーやパネル展示など様々な催しを行いました。なお、開館から18年が経過し、施

設の空調が故障しておりまして、今後も施設の計画的な保全を行っていく必要があります。今年度も川本喜八郎生誕100年として、ワークショップや企画展の開催、広報いいだでの特集など、川本人形美術館の魅力を発信しています。

続いて、文化施設整備事業です。新文化会館の建替に向けて、市民検討会議の運営や情報発信など基本計画づくりを進めている段階です。課題認識といたしましては、基本計画を令和6年度に策定するとしておりましたが、基本構想策定後の状況変化として、建設費の急激な高騰やリニア中央新幹線の工期延長に伴う市の長期財政見通しの見直しなどを踏まえまして、施設を一体的に整備する方法に加えて、施設を複数箇所に分散して整備する方法など、あらゆる選択肢を排除せずに検討する必要があります。令和7年度にかけて計画づくりを進めることとし、現在も引き続き検討を進めています。

(牧内歴史研究所副所長)

歴史研究所管理事業です。こちらは、歴史研究所の運営及び施設の維持管理が主な内容となります。6年度は、歴史研究所第6期中期計画の策定のほか、押洞書庫など施設の維持管理を行いました。また、収蔵場所の確保に向けまして、現状の確認を行っております。7年度は、課題であります収蔵場所の確保に向け、現状確認で見つきました空きスペースへスチール棚を設置するなど、引き続き収蔵庫の確保に向けた検討を続けてまいります。

続きまして、歴史研究所事業です。こちらは、歴史研究所が行う調査研究、教育、市史編纂の3つの事業内容となります。令和6年度は、主催する講座等を会場とオンライン併用で開催して学びの場を提供し、研究員を派遣する出前講座により地域の学習活動を支援しました。また、「年報」と「史料で読む飯田・下伊那の歴史4\_満洲移民と青少年義勇軍」の発行、月2回、美術博物館と共催しております古文書講座も継続して行っております。7年度は、課題となっている、講座の参加者が、高齢者層が多いという実態を踏まえ、中期計画で重点目標としました地域史研究に関わる人材の育成と教育普及事業の推進として、次代を担う小中学生や高校生を対象とした出前講座の開設に向けまして取り組んでまいりたいと思っております。

(後藤座長)

ありがとうございました。これから協議に入らせていただきたいと思います。

参考資料として令和7年度の事業計画も事前にご送付されています。今の説明でも7年度と繋げて説明いただきました部分がいくつかありましたので、それらも踏まえ、資料を見ながら気づかれた点、あるいは、ここはもうちょっと聞きたい点、あるいは意見を申し上げたい点など、どこからでも出していただいて、確認しながら協議を進めていこうと思います。

また説明の中で、生涯学習・スポーツ課の方からはこどもの体力低下の問題が投げかけられております。扱えたらいいなと思っております。よろしく申し上げます。

(森本委員)

先ほど後藤課長がおっしゃった、中学2年生の体力低下というのをびっくりして聞きました。実際は多分中学2年生だけじゃないと思うんです。私、保育士をしていて、ちっちゃなこどものうちから、当たり前かもしれないけど、生活リズムを大事にしています。保育園とか保護者とかこどもに関する人たちは頑張っていると思います。しかし、そこにメディアが入り込んでしまうと今こどもたちの生活リズムがぐちゃぐちゃになってしまう。体を動かす以前のところで生活リズムが安定しないからやる気がなくなっちゃうとか、疲れちゃって寝ちゃうとか、体を動かすのが億劫になるとか、全部繋がってるような気がします。子どもとメディア信州の松島先生のお話を聞いたことがあります、20年くらい前はやっぱりそういうものに触れることがあまり良くないっていうデータもあったけど、今はもうそれは触れないということは無理だから、向き合い方を考えていかなくてはいけないという話を聞きました。その時に子どもと大人と一緒にコミュニケーションを取って、今のこどもたちの環境を守っていくことがまず大事かなっていうことも聞きました。

体力低下に伴うところで、子どもとメディア信州の会は、こどもたちのスマホの、1日何時間見てるとか、それによる弊害だとか、すごいデータを持っているので、先生のお話を皆さんと聞きたいくらいなんです、大人がなんとかしなくちゃいけないっていうところがあるので、体力が低下してるからスポーツしなさいっていう方向になるんじゃなくて、もっと根本を考えた方がいいのかなと思いました。

あと、先ほど図書館の説明にもあった本に触るといふようなところで前頭葉が動くとか、そういうことも知っておく必要はあるかなと思いました。

(後藤座長)

ありがとうございます。口を聞いていただいて感謝であります。早速体力の話が出ましたので、ここから皆さん方、日頃考えていることでも結構ですし、皆さん方が関わっているところからでも結構です。こどもの体力低下について投げかけられました。森本委員からは生活の話が出されました。家庭生活、学校生活、地域での生活等々の話ですが、どこからでも結構です、気軽にお願ひします。

(北原委員)

学校現場の話をさせていただきます。毎年、体力向上プランっていうのを学校は策定して、それに向かってこどもたちにこういうことをやっていこうっていうのを全職員で共有します。私は今、山本小学校に所属しておりますが、うちの学校のこどもたち、体力・運動能力調査の昨年度の傾向で、県平均とくらべた時

にシャトルランの力がとても高く、逆に反復横跳びがやや弱いという結果が出ました。そこで、職員で協議した結果、「マラソンで持久力を更に伸ばそう」という話になって、1学期に1か月マラソン月間を設け、マラソンカードを作って自分で記録をしていって、1枚書き上がったら私がサインを書いたりハンコを押したりするというのを行ってきました。その成果は、また今年度の体力・運動能力調査の結果を見ないと分からないけれども、現場としては、体力・運動能力調査の項目を見て、うちの学校の子どもたちはこういうところがちょっと弱いよねっていうところを協議して対策を考え、実践してきています。

(長谷部委員)

私は、公民館でコロナ前に水曜日の放課後子どもたちと遊んでいました。コロナで止まってしまいお休みしていたところ、今年の2月ですか、子どもさんたちの方から図書館が空いてる時にやってほしいっていうことで立ち上げました。図書館に来ると自動的に公民館で遊んでいるのが分かって、何の広報もしなかったんですけど、今10人の子どもさんたちが遊んでいます。3月までは6年生が遊んでいたわけですけど、今年、公民館が夕方まで開放になりまして、水曜日に中学生が来て勉強してるんです。5時になると、なんとなく小学生の気配を感じて、中学生が降りてきて一緒に遊んでいるという不思議な会になってるんですけど、なんとなく子どもたちが疲れてきて、お家に帰る前に一遊びして帰るっていうようなことがあって、何か機会と場所さえあれば、やりたいっていう気持ちはあるのかなと思ったんですが、お母さんたちが大変忙しくしていらっちゃって、地域の大人の方に工夫がいるのかなってことを考えてます。

(今村光利委員)

15年ぐらい前に私の子が小学校でコオーディネーショントレーニングをやった時に、街場の子よりも、田舎の子の方が弱いという話がありました。学校が統合されたりして、送迎が多くなった。街の子の方がよく歩いたりするということとなり、日常の中で体力がついてくるといふ部分を体育の授業で補ってるようなところがありました。通学路の整備なども数年かけて事細かにやったり、防犯の方で街頭整備なんかを細かくやって、できるだけ子どもたちが安全に日常的に歩けるような環境を作ったらっていうようなことをやったようなことを記憶に覚えています。体育などで瞬間的な力を付けようとするとう持久力がついてこない。日常的に歩く習慣がついていないということが現実的にある。帰りの時間が部活動で遅くなるっていうことがあったりすると、中学生、高校生はほとんど送迎をしているような状況が続いている。日常的に歩くところを見直した方がいいかなと、お金もかからずできる体力づくりかなということを思っています。

というのも、月に1回日曜日の朝に、私はモーニングウォークを続けていて、今月で250回目になります。20年やっているんですが、年配の方がよく歩く、子どもたちの方がすぐバテるというようなことがあります。日常的に歩く習慣がつくような配慮を地元の公民館とか地域の中で心がければいいのかなと思って

います。

(後藤座長)

今までのご発言はずっと繋がっているように聞きました。日常生活の中に機会が用意されているのかどうか、こどもの問題ではなく、こどもの体力が低下しているのはこどものせいじゃないでしょっていうふうに聞こえます。とすると、行政をはじめ、私たち大人の世界の話なのかなと。心を使わなくなると心が弱くなるように、体を使わないと体力が落ちるし、そういうことなのかなと。他にご発言ありませんか。

(今村智子委員)

私も保育士として働いています。森本委員がおっしゃったように、小さい子どもたちの体力自体が今ないです。ほんとにないと思います。保育園に1週間来ていて、特に未満児さんなんか見ていると、こんなに高い段が上がるようになったんだとか、階段も上がるねなんて言って、3連休明けの火曜日に出きましたら、階段が登れませんということがありました。その3連休何やっていたんだろっていうのを親御さんとお話をしていると、こどもは全く歩いていない、歩けるはずなのに歩かせていない、全部親が抱っこをしている、そういう状況がありました。せっかくあそこまで歩けるようになったのになっていうのをとても感じています。散歩で、でこぼこ道が歩けない。舗装の道は歩けるんですけど、砂利道になると転んでしまうとか、途端に速度が遅くなるとか、やっぱりそういうのも普段の生活の中でいかに歩いていないかっていうところもあるのかなって思いますし、座長さんがおっしゃったように周りの大人の責任もかなりあるなって思います。都会の子たちは自分の家の近くの学校に行くのではないですよ。多くのこどもが電車通学をしていたりとか、駅まで長距離を歩いて行ってというこどもさんも多くいるとお聞きしました。そういうことを考えると、田舎の方がすぐ車で送り迎えしてしまうのかなっていうことを思っています。なので、周りがいかに子どもたちのことを考えて働きかけていっていかってというのは、体力だけではなく、ほかのことに関しても大事なんじゃないかなってことを思います。

(後藤座長)

ありがとうございました。様々なご意見をいただいて、事務局の皆さんにもヒントが出てきてくれると嬉しいなと思いました。教育を大きく考えると、知徳体と言った時、どうしても知の方に偏ってしまうというか、重きががそちらに行く傾向になってしまっているということを思いました。悲しい思いとか辛い思いをして、心が豊かになっていくわけですが、そういうものを除外していくと、心が弱っていくだろうと思います。

私が教職に就いた頃、転校していくこどもには「大草原の小さな家」の本をプレゼントしていました。あの物語を読んでいると、本当に悲しいこと、辛いことがいっぱいあるけれど、心がものすごく、育っていくんで

すね。そういうことを考えると、体力をつけるってことは体を動かさないとダメだよってことを今皆さんが言ってくれたのかなと感じたところであります。

子どもの体力低下以外の部分でどうでしょうか。

(竹内委員)

文化財保護の関係で1つお聞きしたり語っていただければと思うことがあります。

命の危険を感じるようなこの夏の暑さの中で、埋蔵文化財の調査等よくぞやっただいておられますということを思っております。上郷飯沼地区あるいは北条地区の辺りの景観が変わり、そこで発掘をされている人たちが余計に目立つような状況の中、恒川の整備が進んで来ておりますけれども、あの発掘の中から感じるのは、朝鮮半島系の史料が出てきているということ。点が繋がって、朝鮮半島系の文化、馬の文化、それが富本銭などにも繋がり、その後の奈良時代の恒川遺跡へと繋がっていくんだという流れが見えてきているような気がするんですが、その辺のところ、特にこの夏の間で上がってきた成果などを教えていただければと思います。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

古墳文化がどのように伝播してきたかということにも関わってくるのですが、恒川遺跡群の中から朝鮮半島製の器が出土しています。そういった遺物が多数出てくるのは、一般的に九州であったり大和地方です。そういったところは朝鮮半島の皆さんが技術を携えて移り住んでいるので、当然出土します。朝鮮半島からもたらされた技術の1つが馬の生産と思います。出土遺物で見ると、座光寺の恒川遺跡しか半島系の遺物は出土していませんでしたが、竹内委員言われるように、例えば下久堅の河原遺跡からも出土していますし、今発掘作業をしているママ下遺跡からも、半島系の遺物や、暮らしに直結するような朝鮮半島系の竈も出てきました。

これをどう捉えるかということになりますが、1つは馬の文化を伝えた人たち、おそらくは半島系の人たちが飯田に入ってきている。ただし、第一世代ではないと私は考えています。おそらく2世や3世の方々が、半島系の文物や技術を携えて飯田に入ってきているのではないかと私は思います。それはあくまでも推測ですので分かりませんが、馬と半島系の文物が繋がっていくというのがだいぶ見えてきたと考えています。

(竹内委員)

ありがとうございます。教育委員会の皆様にそれを聞いていただけたというのも大きな成果になったかと思いますが、恒川遺跡群保存活用事業の次年度に向けての取組に関わって、地域や外部有識者と検

討して展示制作業務を進めていますという部分がございます。先日、長野県考古学会の会長を務めました小林さんとお話しすることができたんですが、内部の話については詳しい話ができなかったというようなお話も伺いました。外部者というと様々な方が来られるとは思いますが、そのガイダンス施設の展示についてどんな方向で進めているのかお話いただければと思います。特に恒川の場合には、山の方を眺めますと高岡1号古墳がございます。日本の中でも国の史跡をすぐ隣で両方見られるというのは、なかなかのところだと思いますので、それを両方を活かすような展示、この景観を見せるという知恵が働くといいんじゃないかなということも思っております。地域の人材育成もとても大事なんですけども、ガイダンス施設をどのように進めていくかっていうことについて、現時点でお話しいただける範囲で結構ですので、お話いただければと思います。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

ガイダンス施設の内容の検討について、史跡専門委員会には地域の方々3名、学術的な研究者として奈良の文化財研究所の職員の方、あと景観の専門家、考古学の専門家、そういったメンバーで委員会を開いて内容を検討したところがございます。1つは、分かりやすくするにはそうしたらよいかということ。なるべく文字を減らそうというところが、なかなかうまくいかないところです。それと、古墳をどうやって繋げていこうかということで、郡衙の背景としての前方後円墳といったような、なかなかかっこいいCGを作りながら、古墳との関係が見れるようにしているところです。ただし、制度的に説明が難しい遺跡であるものから、いかに噛み砕いて作るかというのを職員と委員の先生とで話し合いながら進めているところであります。

(伊藤委員)

部活動の地域クラブへの展開についてお聞きします。先ほど教育長からもクラブの地域展開についてご挨拶の中で触れていただいて、11件の認定クラブがあるということだったんですが、その11件の内訳、スポーツ系が多いのか、文化系が多いのか、今どんな内訳の状況なのかというのをお聞きします。

もう1つは地域展開にあたって様々な課題があると思うんですが、どういったことが大きなネックになっているのかということをお聞きください。個人的に気になっているのが、親の送迎についてです。私も職場で小中高の子どもさんがいるママたちと一緒に働いているんですが、もう平日の夜も週末も常にもう塾や部活の送迎で忙殺されているママたちが何人もいます。そのような状況の中で、その親の送迎もできないことによって、子どもたちの体験の格差に繋がっていかないかというところは気になっているんですが、詳しく私も分かりませんので、状況を教えていただけるとありがたいです。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

内訳の話ですけれども、今のところ全てスポーツ系のクラブとなっています。文化系につきましては吹奏楽が拠点校方式で、市内3拠点で令和8年度のコンクール後、秋過ぎになろうかと思えますけど、そこで休日も平日も完全にクラブ化して地域展開するというところまで到達しております。全国的には吹奏楽の扱いについて課題になっていますけども、飯田市は地域の皆さんのご協力で突破できそうな状況となっています。今のところ、今年度中に公認地域クラブは20団体くらいは立ち上がるのではないかと見込んでいます。

課題ですけれども、一部の競技種目でなかなかクラブの立ち上げに至っていないところがありまして、コーディネーターが手を差し伸べながら、まとめていけるように促している状況がございます。親の送迎ですけれども、潜在的に課題としてはあるんですけれども、今の学校の中学生の送迎を見ていただくと、朝晩学校の前に車の列ができて止められないくらい送迎しているという状況にあります。一方で、部活動の地域展開の話になると、送迎問題が上がってくる。現状と要望との間にミスマッチがあるのではないかと私としては感じているところです。伊藤委員が言われたように子どもたちに体験格差が生じることはよくないので、地元の公共交通を担われてる業者さんに相談したことはありますけれども、採算が合わないことにはできないと言うお答えをいただいております。どのくらいそういったことが必要なのかとか、そういったニーズがどこにあるのかっていうところをもう少し探りながら、この問題は解決していきたいと思っております。

(伊藤委員)

丁寧に教えていただいてありがとうございます。学校単位で行っていたクラブを地域で支えていくというのは本当に大きな転換だと思いますので、行政の方もこれまで計画をして、コーディネーターの方も入られて支えておられるっていうことなので、ぜひ丁寧に進めていただければ嬉しいなと思います。

(熊谷委員)

教育はとても大事だと思いますし、これから飯田学園構想も進めていかれると思うんですが、この飯田の教育の特徴の1丁目1番地を教えてくださいなと思います。

(熊谷教育長)

大きな課題をいただきました。

私、いろんな各地を、長野だったり松本だったり上田だったり勤務しましたが、やはり地域との関わりが非常に濃いというのが1番の特徴のような気がいたします。もちろん学校は先生方がいて、学校の中の教育を充実させたりしているわけなんですけれども、特に小学校あたりは非常に地域の方にお世話になっ

たりとか、一緒に体験を用意していただいたりとか、そういう活動が多いなと思っています。それが飯田の教育の特徴というか、地域の特性というか、そういう部分でもあるかなと。もちろん他地区にも公民館があるし、関わる部分はあると思うんですけども、そういったところの違いは非常に強く感じます。

ただ、他地区と違って、高校で行きますと私立は女子高1校だけというようなところで、長野や松本などは選択肢がいっぱいあるんですけど、そういう意味では選択肢が非常に少ないので、それが特徴と言えるかどうかわかりませんが、皆さんのこどもたちものんびりしているなっていうような、そういう実態が今まではあるなとも思っていました。

しかし、本質的には、こどもたち、非常に真面目に一生懸命やる子たちが非常に多く、人柄が良くて、先生方もですね、教育会の活動、要するに自分たちで自分たちの研修を作るとか、そういうことに非常に熱心に取り組んでいるのが、この飯田を中心とした下伊那のですね、特徴でもあるかな。そういうことに一生懸命なれる地域でもあるなっていうことを思っています。

そういった良さを活かすっていう意味でも学園構想を充実させていきたいんですけども、そういったものを大事にしながら各学園が個性化していくことを願っているところで、どこも同じ、どこ行っても同じってことは公教育としては大事なことなんですけど、その一方で違いもこれから育っていくといいなってことを思っております。

(秦野教育次長)

皆さんがみんなで考えるっていうことですね。飯田学園構想では、自分で考えて自分で道を開いていくっていう、そういうこどもたちに育てほしいと願っています。それは今までの大人たちが、特に社会教育なんかでも言われてきたんですけども、自分で自分の地域を切り開いていくっていう、そういう思いですとか行動ですね。それがこの地域の大きな特徴ではないかなというふうに思っていて、そういう良さを繋いでいくというのが、私どもの地域の教育の原点かなと思っています。

(熊谷委員)

教育長含めて教育次長、ご丁寧にお話いただきまして、ありがとうございます。

まさにおっしゃる通りだと思うんですね。例えばその地域の方々の関わりが強い、また生きる力を育てていくっていうのも、ここにいらっしゃる社会教育委員の皆さんとか、公民館から始まった社会教育の充実と、飯田の先生方もとても一生懸命されてるっていう部分なんですけど、今後を考えた時、他県から見て、ここに住みたい、この教育があるからここに住みたいっていうところが、内々ではそのような形で皆さん共有してるんだけど、他から来る人たちが飯田市の教育に関してどう魅力を感じるのかというのは、これから重要なかなと思います。今、児童生徒、毎年県でも3,000人ぐらい減っていきまじ、飯田市も200人です

か、減ってく中で、今の教育の良さをブラッシュアップしていくことは大事なんだけど、他県から移住してくる、またいろんな人たちが来るにあたって、教育っていうのはおそらく責任世代の子を育てるっていう部分で、とても重要な部分かなって感じています。他から見た時に、飯田がこれからやっていく学園構想はすごいっていう部分、何か尖った部分もあっていいと思うし、それぞれ個性があってもいいと思うんだけど、なんかそういうところも少し視点的に重要かなと思ったところです。

もう1つ、自分は文化部なので、やってみるとわかるんだけど、組合に入っていない人たちが半分以上いたりするわけなんですね。いいこと、これからやんなくちゃいけないってことは私も十分承知して、社会に開かれた教育過程で地域の人たちとやっていく、これが学園構想の基本的な部分もあるんだけど、地域の人たちが組合どんどん抜けていってしまって、これからどうやっていくのかは、ここが1番の課題というか、とても課題かなと。毎回これはずっと言っている難しいところだと思うんだけど、変革を起こさないと、せっかく素晴らしい構想が持続的に繋がっていかない、また充実を図らないと感じました。

最後にもう1つだけ。とても毎回素晴らしいこの資料をまとめ上げてくれているんですけど、例えば参加人数とか、来場人数とかあるんだけど、採算性がどうなのかっていうのは、全くこれ見てもわかんないんですよ。とてもお金かかっている部分があるんですが、参加人数がこうであった。また、図書なども住民あたり1.5冊とかあるんですが、これが他県と比べてどうなのか、この数字の根拠が、ぱっと見た時にちょっと分からなくて、毎年ずっと続けられてきていると思うんだけど、そこら辺の生産性ですね、何か根拠的な部分っていうのが、議会でやることなのかどうか分かりませんが、ちょっと感じたところです。

(小西委員)

新しい文化会館について、報告をいただき7年度に向けてというお話もあったんですけども、7年度も半分終わる時期なので、今の、その計画の進行状況みたいなのが、お話をさせていただけるのであればお聞きしたいと思います。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

先ほど課題認識のところでもお話をしましたけれども、定期的にニュースレターでお示しをしておりますが、これまで基本構想を検討する段階では、1箇所には2つもしくは3つのホールをまとめて作るということ想定していたわけなんですけれども、基本構想策定後に色々な課題が出てきた中で、時間を分けたり施設を分けたりというようなことをしながら、基本構想をどう具現化していくかっていうことを検討しているところです。市長も、各地区のまちづくり委員会の皆さんとの懇談会でも、ご心配いただいている部分にお答えをしたいと思いますけれども、あらゆる選択肢を排除せずに検討するというところでありますので、全てを諦めたわけではございませんけれども、どういった形で基本構想を具現化できるかの検討を進めているとい

う状況でございます。今年度の後半に向けて、専門家会議や検討委員会を開催しまして、皆さんにお伝えできる部分が出てくればと思っています。

いずれにしても、1か所に集約するということに関しましては、かなり広い敷地があるので、これは整備検討委員会でもお示ししましたけれども、3ヘクタール前後の土地がいるということで、整備検討委員会でお示したのは、今の市役所プラス動物園の周辺も含めたエリア程度の広さの土地が新たに生み出せないと3ヘクタールぐらいの土地が出てこないということで、それが現時点では難しいということで、どのように時間的なことや空間的なことを解消していくか、検討を進めている状況です。

(小西委員)

具体的なお話をさせていただいて、大変参考になりました。

検討委員会の中では基本構想がまとまってきたということもありますけれども、実際にその具現化する方法はどうなのかっていうところが今の課題なんだろうっていうふうに思っていますので、ぜひ、基本構想に基づきながらも、現実的にはこういうところでのいうのをお示しをまたしていただくと、地域の皆さんも安心できるのかなと思いますので、進行状況を情報提供していただけるとありがたいなと思っております。リニア開通の時期が少し先に行ったということもあって、施設整備についてはいろいろな思いを持っている人たちがいると思いますので、難しいところだと思いますが、ぜひ方向付けをしていただければと思います。

(三浦委員)

私、長く社会教育委員をやっているんですけども、このレジメも随分変わってきたなと思います。細かくなって、0歳児から3歳児、高校生、それぞれの方向性とか、コミュニティスクールとか、項目で分かれて方針を決めてあるというのはとてもいいことだなと思います。私は、乳幼児学級でパンを作るっていうのをやっているんですが、最初の4月は参加者が多いのに、1年経つと保護者の皆さんは働いて乳幼児学級に出てこなくなるっていう現実があります。この計画を立ててもお母さんたちが連れてこない。そこをどうしたらいいかっていうのも大事な問題かなと思います。

また、先ほど話が出たスポーツもそうですけども、体験がすごく少ないので、この間もハサミの使い方が正しくない子がクラブに行くと20人くらいの中に1人くらいはいるんです。ハサミは道具なので、自由に使っていていいというわけではなく、こうやって切ると切れるんだよっていうことを教えていく必要があると思うんです。科学実験教室に子どもを連れてきても横を向いているだけの保護者の方もおり、昔からの繰り返しですけども体験の重要性を親御さんや子どもさんにどう伝えていくのかすごく難しい問題だなと思います。こうやって細かく分けて指導したりしていくのも1つの案かなとも思います。

(後藤座長)

50分ほど協議をする時間が取れたこと、良かったかなと思います。

最初に出していただいた体力の問題で3つのキーワードがあって、そのことがやっぱり今のお話からも出てきました。一事が万事と申しますけれども、こどもの体力が低下しているってことが、単なる体力だけじゃなくて、教育っていうものを、改めて考えさせられるきっかけになるのじゃないかな、ということを感じさせていただきました。それは学校教育だけではなくて、家庭教育や社会教育も全く同じだろうなと思いました。

協議の方、ここで終わらせていただきたいと思います、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

#### 4 教育委員会各課・館・所からの報告事項

(上沼教育政策課長)

遠山郷学園における小学校の再編に向けた基本方針につきまして説明させていただきます。

この方針を策定した背景でございますが、5月7日に、上村、南信濃両地区のまちづくり委員会の会長より飯田市長、飯田市教育長に対して、遠山郷学園における学校の配置枠組み等についての要望書が提出をされました。要望の内容といたしましては、遠山郷学園の児童生徒数の減少が著しい中、現状より望ましい教育環境づくりを目的に、学園内の配置枠組みについては、早期に再編が必要であり、2つの小学校を再編すること、再編後の小学校は上村小学校の施設を使うこと、再編の時期は令和8年4月を要望すること、主にはそういった内容でございました。

我々といたしましては、この要望を真摯に受け止めまして、こどもをまんやかに、こどもたちにとってより良い学びの環境を作ること、これを第一に学校等関係者等と協議をし、検討する中で策定したものでございます。

まず、基本的な考え方として、小学校の再編に向けては、児童生徒、これをまんやかに置いて、よりより学びの環境を作っていくこと、また、安全で安心な教育環境の確保を目指して検討を進めていくということ、また、関係する方々が手を取り合って再建に向けた取り組みを進めることができるよう、学校、地域、家庭との対話を通じてこういう形成を図っていけると考えております。また、学校の在り方の審議、これも並行してやっていますが、遠山郷学園の小学校再編に関しては、先行的な取組として、地域全体における学校のあり方の審議と同時に進めてまいります。

この方針の柱となります5つの考え方は次のとおりでございます。

まず1つ目、小学校の体制移行ですが、基本方針としては、現在の1中学校2小学校体制から、1中学校

1小学校体制へ移行いたします。

2つ目、活用する学校の施設につきましては、校舎の建築後の年数、また防災面から見た学校施設の安全性を鑑み、現上村小学校を使用していきます。

3つ目、児童生徒をまんなかに置いた再編過程についてでございます。上村小学校、和田小学校の児童がともに学習する環境を可能な限り早期に実現する観点から、令和8年4月から実質的な再編となる合同授業を実施しつつ、令和9年4月の完全再編に向けて取り組んでまいります。地域の要望では、令和8年4月でございますが、児童の環境の変化への対応、また学校における教育環境の構築に向けた検討等、作業を進めるためにはやはり一定程度時間が必要となってきます。そういった状況もありますが、地区の要望を踏まえ、可能な限り早期に実現していく観点から、来年の4月からは実質的な再編となる合同授業を実施していきます。このような3つの再編の過程を経て、令和9年4月の完全な再編を目指していきたいと考えております。

4つ目、小規模特認校制度の継続についてですが、小規模特認校制度というのは、上村小学校の通学区じゃない児童も通学希望し教育委員会が認めれば上村小学校に通えるという制度でございますが、これは再編後の小学校においても継続をいたします。

5つ目、再編の推進体制ですが、再編を円滑且つ確実に実施していくため、遠山郷学園小学校再編検討委員会を設置いたします。この検討委員会では、校名、校歌、校章、学校運営方針等、再建に向けて必要となる取組を検討してまいります。検討委員会の委員は、保護者、学校、地域を代表するもので構成をいたします。また、必要によって部会を設置して、より具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

今後のスケジュールですが、現在、検討委員会の設置に向けた準備を進めております。9月末ぐらいには検討委員会を設置いたしまして、来年4月からの実質的な再編、そして令和9年4月からの完全再編に向けて、記載されている様々な事項について検討を進めていきたいと考えているところでございます。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

本件は本日、報告事項ということで取り扱わせていただいております。

皆様方からご意見等ございましたら、改めてお寄せいただければと思います。

(瀧本副参事中央図書館長)

資料にチラシが2枚付けてございますけれども、今年度、110周年記念事業として大きく3件の事業を計画しております。

まず、1枚目のチラシですが、図書館マルシェということで、9月23日に図書館の中や外で34の個人や団体の方にご参加いただき、ブースを受け持っていて、その皆さんとお話を楽しみながら、本と人と

の出会いや交流を楽しんでいただくという企画を行います。オープニングセレモニーでは、飯田コアカレッジの皆さんに作っていただいた図書館のPR動画の上映などもございます。普段は図書館というと静かなところですが、この日は多くの方に集まっていただき、お話をし合いながら楽しんでいただくという企画ですので、これをきっかけに図書館に足を運んだことがない方も来ていただきたいと思っております。

それから、もう1枚のチラシの方に記載してありますが、11月には、中央図書館のあゆみ展ということで、11月15日から30日まで、110年間のあゆみを振りかえる展示を行います。そのチラシの裏面に書いてありますけれども、11月29日には、図書館の明日を語る会ということで、講演会とパネルディスカッション、グループトークを行います。これからの図書館について考えることと、皆さんが図書館でやってみたいことがあったらやってみようよということを語り合う会にしたいと思っておりますので、委員の皆さんも、ぜひこの日は図書館を覗いてみていただければと思います。

(小林公民館副館長)

本日お配りさせていただいておりますチラシが3枚ございます。

まず1つ目ですが、飯田市民大学講座です。今年度、第49回ということで、今お話ありました図書館110年の歩みも第5講で計画をさせていただいております。また、市民大学講座運営委員会では、後藤座長さん、今村委員さんとともにワクワクしながらどういう講座にしようという方をお願いしようと計画させていただきました。11月22日には市民大学講座せっかく交流会として、来年度50回を迎えますので、そのことも含めてこれからまた準備を進めてまいりたいと思っております。

続いて、カンボジアスタディツアー報告会です。これは今年度実施をしております、本日もカンボジアスタディツアーに参加した高校生たちが事後学習のために自主的に集まって進めております。その報告会になりますので、ご都合つきましたらよろしくお願いいたします。

もう1点、東北スタディツアーですが、これはこれからになります。11月1日から3日にかけて現地学習を行います。現在、高校生を募集しつつ、また今年度の新たな取組としましては、地区所管で進めていく方式で山本地区を対象として実施します。それ以外の地区の高校生を排除するわけではありませんが、少し地域の色を持たせながら、このスタディツアーを通じて、さらに二十歳の集いでありますとか、地域とどうつながっていくかなどの観点を持ちながら、講座の方向性、計画をしております。

(榎村美術博物館副館長)

続きまして、美術博物館から特別展のご案内をさせていただきます。

今日、チラシを配らせていただきました。もうこの今週末からスタートするわけですが、特別展「山とともに生きる-遠山郷のあゆみとくらし-」でございます。道の駅の再開で遠山郷は大変話題になっておりま

すが、美術博物館では山林が多い遠山郷でどのような生活、特に山に焦点を当てまして展覧会を開催いたします。古くは平安時代の終わり東鏡の中に江儀遠山在として出てきますが、古代、中世の遠山の在り方を鱧口などの資料を通してご覧いただけます。また、近世では、樽木を納める地域として知られたわけですが、その樽木のこと、それから、東本願寺を再建した時に遠山から木を切り出しておりますので、その時の記録、遠山奇談を見ていただけます。また、近代では王子製紙が入って、その時に遠山がどのようなようになっていったかという話や、さらには森林鉄道のことなど遠山をテーマに様々な角度から見ていただけます。

また、過去に遠山を取材した、「遠くへ行きたい」というテレビマンユニオンが作りました映像の上映会も行いたいと思っておりますので、ご興味ある方はぜひご参加いただければと思います。

(三浦委員)

おもしろ科学工房ですけども、3枚あります。

9月の理科実験ミュージアム、10月の理科実験ミュージアム、日曜日にかぎこし子どもの森公園で行っています。それと、南信州サイエンスクエストのチラシがあると思います。おもしろ科学工房は、この参加団体になりますけども、美術博物館、図書館、動物園、かわらんべなどが、こういうところが飯田の中で同じ目標を持ってということで、年に1回、9月に同じテーマでそれぞれ活動を行っております。これが今年10年になるということで、旗を作って行っておりますので、またよかったら見に来ていただければと思います。

## 5 今後の日程

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

10月に全国社会教育研究大会、11月には関東甲信越静、これは自主参加ということでご案内申し上げます。11月7日県の理事会、12月3日飯伊地区の理事会です。年が変わりまして、令和8年2月7日みらい創造教育推進フォーラムを予定しており一般参加者としてお声がけさせていただきます。2月13日県の理事会、2月15日飯田市公民館大会はご来賓としてお声がけさせていただく予定です。日程未定ですが、2月中旬頃、社会教育委員会議第2回定例会、そして飯伊地区社会教育委員連絡協議会中部ブロック研修会で、大鹿村が当番ですけども、連絡参りましたらご案内させていただきます。

## 6 その他

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

委員の皆様方からご発言があればお願いします。

(発言する者なし)

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

ありがとうございました。

## 7 閉 会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長)

以上もちまして、第1回定例会を終了とさせていただきます。